

「第 23 回 製剤機械技術学会 仲井賞」
受賞者の選考結果について
The 23rd NAKAI Award of Japan Society of
Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員会 委員長 丹羽 敏幸
Toshiyuki NIWA
Chair of Selection Committee of the NAKAI Award

本学会では創立 10 周年を機に、2000 年より表記の賞を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。

仲井賞選考委員会において、応募内容について新規性、実用性、社会における貢献度の観点から、慎重かつ厳正に審査した結果、下記を「第 23 回 製剤機械技術学会 仲井賞」受賞者として会長に報告し、理事会にて受賞者が決定いたしました。

記

- ・受賞者：田中 宏典、落井 裕也、諸戸 康志（塩野義製薬株式会社）
平田 大介、茨城 哲治（株式会社広島メタル&マシナリー）
- ・受賞業績題目：ビーズミルを用いたコンタミレスナノ結晶製剤の製造法開発
- ・受賞理由：受賞候補者らは、難溶性薬物の溶解性・消化管吸収性を改善する製剤技術の構築に取り組み、実用性の高い湿式ナノ粉碎技術とその粉碎装置（縦型ビーズミル）を開発した。ジルコニアビーズを粉碎媒体に用い、ソフト面からは、その pH- 溶解度挙動に着目して粉碎効率を低下させることなく、金属不純物（ジルコニウム、イットリウム他）の混入を大幅に抑制した。一方、ハード面からは、コンタミが最小となる縦型ミルを提案し、網羅的な実験を経て最適運転条件（ビーズ径、周速、薬物濃度）を確立した。その結果、湿式ビーズ粉碎の先駆けとなった Nanocrystal 技術をも凌駕し、規制当局の容認可能なレベルまで金属コンタミ量を低減するに至った。本技術は、系列の受託会社に技術移管しており、医薬製品としての今後の実用化が期待される。また、受賞候補者らは本技術開発により得た知見を各種の学術学会で発表し、国際的な学術誌に学術論文として掲載するなど、本邦における製剤技術の国際的競争力の向上にも貢献した。こうした成果は、製薬会社や製造装置会社単独では成しえなかったものであり、異分野業界の技術の結集が成し遂げた大きな進歩と認められる。以上のように、本業績は、新規性、実用性、国内での製剤生産技術の向上における貢献度から仲井賞受賞に十分値すると判断する。

以上

「第 6 回 製剤機械技術学会 仲井賞若手研究者奨励賞」
受賞者の選考結果について
The 6th NAKAI Young Investigator's Encouragement Award of
Japan Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

該当はありませんでした。